

区分・種別	県指定有形文化財（工芸品）		
名 称	こんどうざおうごんげんみしょうたい 金銅蔵王権現御正体 1面		
所 在 地	西条市小松町石鎚		
所 有 者	横峰寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和40年4月2日		
解 説	石鎚山の北方の山中に四国八十八か所60番札所の横峰寺がある。昔より石鎚登拝の拠点として、前神寺と共に栄えた寺院で、本尊の大日如来坐像も県指定の有形文化財となっている。 蔵王権現の御正体は、銅製鍍金製のものであるが、土中に埋っていたため背形部（鏡板）はかなり破損している。御正体は高さ22.2cm、幅14.0cmほどのものである。 像は全身を薄手に鑄出し、背後の輪光と右手持物の金剛杵を別につくって鋲留めしている。また尊体には線刻が施されており、小品で温かな表情であるが、石鎚修験道にかかわる遺品として貴重なものといえる。平安時代末期頃の製作と推定される。		

